

# 無名のセクシュアリティをどのように広めるか？

3年4組17番 堺 琴葉

## 1. はじめに

世の中には「男」と「女」がいて、必ずそのどちらかに属するという考え方を男女二元論という。社会は伝統的に、男女二元論に基づいて成り立っているものが多いように感じる。しかし、自分のことを男とも女とも思っていない人もいる。例えば私のように。私は自分の性別は「なし」と思っている。そして、これまでの生活の中で、たくさんの生きづらさを感じてきた。例えば、学校生活の中で必要以上に「男女」に分けられたり、家族、学校、そして社会から「女らしくしなさい」と言われたりした。また、私のセクシュアリティはどれも無名なので一度の説明で理解してくれる人は少なく、何度も説明しないといけなかったり、受け入れられないと言われたりした。また、LGBTはニュースで取り上げられたり、SNSで有名人がカミングアウトしたりして最近有名になってきているが、それ以外のセクシュアリティは名前が知られていない。それゆえに、「セクシャルマイノリティといえばLGBT」という既成概念がはびこってしまっているといえるだろう。私は自分自身の生きづらさと、私と同じような生きづらさを持つ人を少しでも減らしたいと思ってその探究を始めた。

## 2. セクシュアリティとは

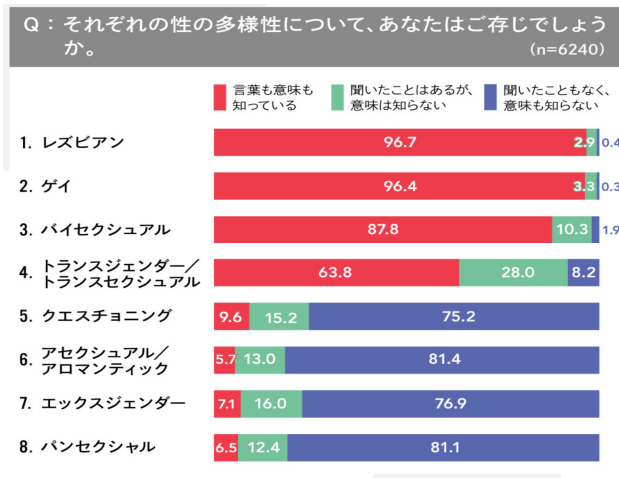
セクシュアリティとは自分の性の捉え方のことである。これらは性的マイノリティの人だけでなく皆に関係するもので、「性自認」「性的指向」「恋愛指向」「性表現」の4つの項目に分かれている。これらは4つの項目すべて合わせて組み合わせは2000種類以上あると言われている。性自認とは自分の心の性別が何かということで、男、女だけでなくさまざまなものがある。性的指向は自分がどの性別の人、または物に性的に心が惹かれるか、惹かれないかということである。恋愛指向とは自分がどの性別の人、物に恋愛感情を抱くか、または抱かないかということであり、前述の「性的指向」とは感情が性的かそうでないかによる区別があり、これらは一人の中で必ずしも一致するとは限らない。性表現とは、自分がどの性別を表現しているかということで、服装、言動、一人称によるそれぞれの性別らしさによって区別される。

(「セクシュアリティ分析 anone,」 <https://anone.me/>)より

## 3. 序論

近年、LGBTはメディアやSNSの中で話題に上る機会が増え、社会的認知度が高まっているが、それら以外のセクシュアリティはまだ認知度が高いとは言えない状況である。電通(2020年)による「性的少数者に関する意識調査」の結果(調査対象=当事者、非当事者の10代~50代の男女6240人)「それぞれの性の多様性について、あなたはご存じでしょうか」という質問において、「言葉も意味も知っている」と答えた人の割合は、「レズビアン」で96.7%、「ゲイ」で96.4%、「バイセクシュアル」で87.8%、「トランスジェンダー・トランスセクシュアル」で63.8%と、それぞれ50%を超えていた。だが、「クエスチョニング」は9.6%、「アセクシュアル・アロマンティック」は5.7%、「エックスジェンダー」は7.

1%、「パンセクシュアル」は6.5%で、それぞれの項目で10%に満たなかった。このように、LGBT以外のセクシュアリティは有名とは言えない状況にあると言える。（下図参照）



では、どうすればLGBT以外のセクシュアリティを広めるにはどのような方法が一番良いのか。その問題を解決するために、自作の2つのアンケート結果を用いて検証する。

#### 4. 自分探しの旅に出よう！プロジェクト」とその結果

無名セクシュアリティを広めようと「自分探しの旅に出よう！プロジェクト」を設立し、その取り組みとして「セクシュアリティの単語帳」及び「セクシュアリティ診断チャート」を自作した。以下はその概要である。

- ・「セクシュアリティの単語帳」（以下、「単語帳」と記述）はいろいろなセクシュアリティ（シスヘテ、LGBTなどある程度知名度のあるものも含む）約400種類を4冊に分けて記述。2022（令和3）年5月から2ヶ月程度図書室前廊下に設置。探究週間の交流会、国際会議にも持参。
- ・「セクシュアリティ診断チャート」（以下、「チャート」と記述）は質問に答え進めていくと自分に近いセクシュアリティがわかるというものである。見るだけの「単語帳」とは違い自分のセクシュアリティを体系的に発見してもらおうと作成した。2022年5月より約2ヶ月間の布教活動を行い、「チャート」を体験したい人々に体験してもらった。探究週間の交流会、国際会議にも持参。

##### (1) 「セクシュアリティの単語帳」のアンケートの仮説、結果とその考察

「セクシュアリティの単語帳」付属アンケートは14件の回答を得た。調査対象は国際高校生とその教職員。1年、2年がそれぞれ28.6%、3年が35.7%、教職員が7.1%と幅広い世代からの回答を得た。プロジェクト開始前は単語帳を見る人はそれほどいないだろう、また、煩雑でありあまり興味を持つ人はいないと思っていた。アンケート結果として、「どうして単語帳を見ようと思ったか」という問いに対しては「いろいろなセクシュアリティに興味があった・知りたかった」と「知識の勉強のため」が多く、ここから被験者が自発的に色々なセクシュアリティを学ぼうとしていることがわかる。「単語帳を見る前の気持ち」として目立ったのは、「LGBTしか知らなかった」や「知りたい、気になる」である。また、単語帳を見た後の気持ちとして、「たくさんの言葉があって驚いた」が多数であり、このことからいろいろなセクシュアリティの名前やその意味を学んでもらえたと感じている。

## (2)「セクシュアリティ診断チャート」のアンケート結果とその考察

「セクシュアリティ診断チャート」付属アンケートは国際高校生とその教職員、高校生国際会議「みんなちがうゼミ」の参加者から41件の回答があり、その属性は1年が17.1%、2年、3年がともに41.5%であった。「単語帳」ではそれほどたくさんのデータが集まらなかったため、今回は高校生国際会議の参加者にも協力していただき、より多くのデータを集めることに成功した。私は、自分の属するセクシュアリティが可視化されることで興味を持つ人が増えるという仮説を立てた。結果としては、「どうしてチャートをやってみようと思ったか」という質問には「グローバル探究の一環として」が最多の16件を占め、後続に「興味があったから」「教室にQRコードが貼ってあったから」(ともに11件)であり、さまざまな理由で取り組んだことがわかる。チャートをやる前の気持ちとしては、「楽しそう、興味本位」と「どんな質問があるか気になる」という回答が目立ち、取り組んだ後の気持ちでは「自分のセクシュアリティの幅を知ることができた」や「楽しかった」など被験者が前向きにチャートの結果を捉えていることがわかる。また、意識の変化(複数回答可)としては「興味があった」が最多の26件であった。チャートの結果を得る前は、被験者(チャートに取り組んだ人)は彼らが自認するそれぞれのセクシュアリティと同じ結果が出て、新しい発見はあまりないだろうと考えていた。結果として注目すべきは、「自分の思っていたセクシュアリティだった」という回答が21件、「自分の思っていたセクシュアリティとは違った」という回答が18件となり、これらの相反する項目が二分する結果となったことだ。なぜこのような結果が得られたか。考察としては、被験者がそれほど多くのセクシュアリティを知らなかったからだと考えられる。人間の性別には男と女の2つがあり、すべての人間はそのどちらかに必ず属するという「男女二元論」という認識の人が多かったからであろう。こういう理由で、チャートにおいて見たことのないセクシュアリティが出てきた時に、「自分の思っていたセクシュアリティではない」と多くの人が思ったのではなかろうか。さらに、「図書館前の単語帳の存在に気づいていたか」という質問では、「単語帳を手にとって見た」が35.9%、「ポスターは見たが、単語帳そのものは見ていない」が35.9%、「存在自体を知らなかった」が28.2%と、それぞれをほぼ3等分する形となったことも驚きだ。また、自由記述の設問「チャートをやってみて思ったことを自由に書いてください」では、「ややこしかった」や「チャートは楽しかったが答えを送信するのが恥ずかしかった」などの回答も見られた。今後はこのチャートを使う機会は恐らくもうないと思われるが、次にこれに類似するものを作成する場合は参考にしようと考えている。

## (3)KOKUSAI RAINBOW PRIDE の実施とその活動報告

2022年6月28日、「KOKUSAI RAINBOW PRIDE」を実施した。参加者は2人。内容は、レインボープライドの紹介、自分らしく生きるためにどうすれば良いかというディスカッションなど。参加者の皆さんで「ジェンダーを越えた自分らしさ」や「LGBT解放運動の歴史」などについて深く学ぶことができ、ジェンダーの面でより良い生活のためのヒントを皆で共有できた良い時間になった。参加者がとても少なかったため、まずは一緒に開催する仲間集めが大切だと考える。今後、このようなことをする場合はプレゼン形式だけでなく、グループワークやゲームなどたくさんの形式を取り入れて参加者を募りたいと考えている。

## 5. 結論

「セクシャルマイノリティといえばLGBT」というほどにLGBTだけが有名な中で、多くの国際高校生が自発的に色々なセクシュアリティを学ぶ機会としてプロジェクトが役立ち大いに喜んでいる。単語帳は「見る」、チャートは「質問に答える」という形式で、さまざまなセクシュアリティを可視化すれば皆に分かりやすく伝わるということ、そして、「セクシャルマイノリティはLGBTだけではない」ということが伝わっている。今後もこれらの研究を続け、膨大な数のセクシュアリティを如何にわかりやすく広めるかという目の前の問いに対して向き合いたいと考えている。もしも無名セクシュアリティの知名度が上がれば、無名セクシュアリティ自認の人々が生きやすく、カミングアウトしやすくなり、最終的には、多様性のある社会になるのではないかと考えている。そして、これらの事を伝える暁には、セクシュアリティを自分に関係があるものとして捉え、周りの人との関係の中でその感覚が行動に実践されなければならない。

## 6. おわりに

大学生になったらこの探究からは一旦離れるつもりだが、個人での探究(SNSでの発信、PRIDEへの参加など)は続けていくつもりである。もし今後機会があれば、共に活動できる仲間を増やし、このプロジェクトを継続したいと考える。

無名のセクシュアリティで悩む人を1人でも減らすために、これからの高校生の皆さんとその先生方、保護者の方々への提言をして末筆とする。

まず、自分のセクシュアリティが周りの人と違って落ち込まないでほしい。セクシュアリティはそれぞれ皆違って当たり前だからだ。

「彼氏・彼女は？」や「男・女らしく」という発言には気をつけてほしい。何気ない発言かもしれないが、それで傷ついてしまう人もいるからだ。代わりに、「恋人・パートナー」や「あなたらしく」という、誰にでも使える中性的な言葉を提案する。そして、友達からカミングアウトされた時には、周りの人には秘密にしておくべきだ。その場合は「アウティング」と呼ばれ、人のセクシュアリティを許可なく第三者に言いふらすというハラスメントになる。

また、私がセクシャルマイノリティについて授業ではじめて習った時、その内容は主にLGBTだけで、他のセクシュアリティの名前は出てこなかった。セクシャルマイノリティはLGBTだけではないということを理解し、高校生の皆さんが多様な性への理解ができるようにするため、「アセクシュアル」や「クエスチョニング」、などある程度知名度のある種類の名前も教えて頂きたい。可能であれば、「シスジェンダー」や「ヘテロセクシュアル」など多数派の種類も教え、多くの高校生が自分ごととして捉えられるような授業を展開してほしい。

最後に保護者の方々へ。どうか、子どもたちからセクシャルマイノリティであることをカミングアウトされても否定しないでください。

## 7. 参考文献・出典

電通報 吉本妙子「LGBTQ +調査2020 No.1 LGBTQ +の『Q +』の存在を知っていますか？～最新調査レポート」

「セクシュアリティ分析 anone,」中西高大 <https://anone.me/>

「セクシュアリティの単語帳」アンケート(自作)

「セクシュアリティ診断チャート」アンケート(自作)